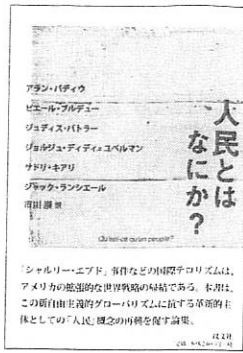


アラン・バディウ、ピエール・ブルデュー、ジュリアン・バトラ、
シヨルジュ・デイディエール、ジャック・ランシエール

人民とはなにか？

人民とはなにか、いったい誰を指すのか、人民の名に値する総意なるものが、ある特定の一人か、万人か、と答えるの見解の根拠とされて、手なら、その全体を把握できる者は、だれひとりとしていないだろう。毎秒に生まれては死んでいく人間の全体を、どうすれば知ることができるといえるのか。もしも人民の範囲に境界を引くのもある。それは、人民がなら、どこで引かれ、だれが引くべきなのか。年齢、



四六判・228頁・2400円
以文社
978-4-7531-0325-6

能力で、血統で、居住地で、の意味をめぐって、人民の出生地で、財産で、証明書 イメージを争って、政治がで、なんでもあっても、た 展開されているかのようである。 本書には、今日の政治と 社会をめぐって積極的に発 言してきた六人の論考、ア ラン・バディウ「人民」 「民衆」「大衆」「民」という語の使用に関する二 四の覚え書き、ピエール 「多義性」は、はつきりであら 民の「」と言ったのですか 多義語が政治の文脈で発せ 「われわれ人民」集会 られるときだ。だれも全体

シヨルジュ・デイディエール 四巻『露出される人民』形 象化する人民「写された人 物」の「可感的にする」 サドリ・キアリ「人民と第 三の人民」、ジャック・ラ シエール「不在のポピュ リズム」が集成され、それ ぞれに上述のごとき人民 の多義性の政治的効力が考 察されている。

政治哲学や社会学で名の 知れた著者たちに混じっ て着目しながら、人民がど のようにイメージされ、か つイメージに 対して、呈され、だれ いかみずか にかみ込む を説得しようとするのか。 のかというこ 序にあるように、本書そ と自体を、政 のものが、この人民とい う政治的駆け引き 多義語のイメージをめぐる の根底に位置 駆け引きに介入しようとの づけていく。 論争的意図をもっている。 つまるところ 言葉とイメージこそが政治 の支点にして争点なのだ とすれば、本書を継いで、あ ーシとしてあ り、いまなすべき政治の美 れるのか、そ 踐であるだろう。(市川崇 れ自体が政治 訳) (おかもと・げんた氏 をなす。ラン

いまなすべき政治の実践とは

「人民」の多義性の政治的効力を考察

岡 本 源 太

シエールも言 攻) うように、単数形で考えら れた人民などは存在せず、 のは、少し意外かもしれない。 とはいえ、このところ の人民の形象があって、そ れらのあいだで係争が繰り 政治実践がイメージや想像 力を支えにして展開するさ ブルデューが称賛にも異称 にもなる「ポピュラー」の 語の両義性を問題にし、キ

- ★アラン・バディウは現代フランスを代表する哲学者・作家。国立高等師範学校フランス現代哲学国際研究センター所長。一九三七年生。
- ★ピエール・ブルデュー(一九〇二-二〇〇二)は社会学者。アルジェ大学、国立社会科学高等研究院を経てコレージュ・ド・フランス教授。
- ★ジュディス・バトラはカリフォルニア大学バークレー校教授・修辞学・哲学専攻。一九五六年生。
- ★シヨルジュ・デイディエールは美術史家・哲学者。国立社会科学高等研究院准教授。一九五三年生。
- ★サドリ・キアリは政治学博士・共和国原住民運動の創設者。一九五八年生。
- ★ジャック・ランシエールは哲学者。パリ第八大学名誉教授。一九四〇年生。